

作成日 2011年05月12日

改訂日 2017年12月28日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	ミネラルオイル
会社名	バイオメリュー・ジャパン株式会社
住所	〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-7 赤坂溜池タワー2F
担当部門	薬事部
電話番号	03-6834-2666
緊急時の電話番号	03-6834-2718
FAX番号	03-6834-2667
推奨用途及び使用上の制限	空気遮断

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理的・化学的危険性	引火性液体 区分外 自然発火性液体 区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 区分外 急性毒性(経皮) 区分外 皮膚腐食性・刺激性 区分外 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2B 皮膚感作性 区分外 生殖毒性 区分外 吸引性呼吸器有害性 区分1 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素 シンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	眼刺激 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
注意書き	
安全対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
救急措置	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
保管	無理に吐かせないこと。
廃棄	施錠して保管すること。 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別

単一物質

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
白鉱油	100%	特定できない	不明		8042-47-5

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び 鉱油(政令番号:168)(100.00%)
有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。
吐かせないこと。
口をすすぐこと。

5. 火災時の措置

消火剤

使ってはならない消火剤
特有の危険有害性

粉末消火剤、二酸化炭素、散水、泡消火剤。
棒状注水。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外は近づけない。
風上に留まる。
低地から離れる。
作業者は適切な保護具(8. 曝露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。

回収、中和

環境中に放出してはならない。
少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。

封じ込め及び浄化の方法・機材
二次災害の防止策

大量の場合、液体の前方にせきを作り、後で廃棄する。
危険でなければ漏れを止める。
すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

火気注意。
吸入、飲み込みをしないこと。
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
眼との接触を避けること。
飲み込みを避けること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
皮膚との接触を避けること。
『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管

接触回避

技術的対策

保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。
保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適当な傾斜をつけ、かつ、適当なためますを設けること。
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
『10. 安定性及び反応性』を参照。
酸化剤から離して保管する。
施錠して保管すること。
消防法で規定されている容器を使用する。

混触禁止物質
保管条件

容器包装材料

8. 曝露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(曝露限界値、生物学的曝露指標)	
		日本産衛学会 (2010年版)	ACGIH (2010年版)
白鉱油	未設定	未設定	未設定

設備対策

本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
工程でミストが発生するときは、換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具

換気が不十分な場合には、適当な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な手袋を着用すること。

眼の保護具

眼の保護具を着用すること。
保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護 適切な保護衣を着用すること。
具
衛生対策 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状态	液体
	形状	液体
	色	無色
臭い		無臭
pH		データなし
融点・凝固点		データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲		335°C
引火点		224°Cクリーブランド開放式
燃焼又は爆発範囲		データなし
蒸気圧		<133 Pa (20°C)
蒸気密度(空気=1)		データなし
比重(密度)		0.875 (15.6°C)
溶解度		水に不溶
n-オクタノール/水分配係数		データなし
自然発火温度		データなし
分解温度		データなし
臭いのしきい(閾)値		データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)		データなし
燃焼性(固体、ガス)		適用されない
粘度		データなし
動粘性率		データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の条件においては安定である。
危険有害反応可能性	危険な重合は起こらない。
避けるべき条件	熱、火花、裸火などの着火源。
混触危険物質	強酸化剤。
危険有害な分解生成物	燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素が発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	ラット、LD50>5000mg/kgの記述(bioMerieux社製MSDS(2009.12.28))から、区分外>2000mg/kgによりGHS:区分外に該当する。
	経皮	ウサギ、LD50>2000mg/kgの記述(bioMerieux社製MSDS(2009.12.28))から、区分外>2000mg/kgによりGHS:区分外に該当する。
	吸入(蒸気)	データがなく分類できない。
	吸入(ミスト)	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性・刺激性		「皮膚との接触による影響は予想されない」の記述(bioMerieux社製MSDS(2009.12.28))により、GHS:区分外に該当する。
眼に対する重篤な損傷・刺激性		「眼を軽度に刺激することがある。」の記述(bioMerieux社製MSDS(2009.12.28))により、GHS:区分2B「眼刺激」に該当する。
呼吸器感受性		データがなく分類できない。
皮膚感受性		モルモットに対し感受性なしとの結果が得られている(IUCLID (2000))ことから、GHS:区分外に該当する。。
生殖細胞変異原性		データがなく分類できない。
発がん性		データがなく分類できない。
生殖毒性		ラットに対し影響なしとの結果が得られている(IUCLID (2000))ので、GHS:区分外に該当する。

特定標的臓器毒性(単回暴露)
 特定標的臓器毒性(反復暴露)
 吸引性呼吸器有害性

データ不足のため分類できない。
 データ不足のため分類できない。
 EU: R65「有害性: 飲み込むと肺障害を起こすことがある」の記述 (bioMerieux社製MSDS(2009.12.28))により、GHS:区分1「飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ」に該当する。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性
 水生環境慢性有害性

データがなく分類できない。
 データがなく分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

汚染容器及び包装

14. 輸送上の注意

国際規則

海上規制情報

非危険物

国内規制

航空規制情報

非危険物

陸上規制

消防法の規定に従う。

海上規制情報

非危険物

航空規制情報

非危険物

特別の安全対策

輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。
 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないように積載すること。
 移動の際に、転倒、衝撃、摩擦、圧壊、漏洩などを生じないようにする。
 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
 運搬中の事故等により災害が発生した場合は、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。
 重量物を上積みしない。
 輸送時にイエローカードを携帯する。
 なし

緊急時応急措置指針番号

15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(鉱油)

消防法

第4類引火性液体、第四石油類(法第2条第7項危険物別表第1)

16. その他の情報

連絡先

バイオメリュー・ジャパン株式会社

参考文献

UCLID(2000)

bioMerieux社製MSDS(2009.12.28)

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではございませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。